

こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
中央文化保育園
浦町保育園



撮影：青森中央学院大学経営法学部2年 HO NGOC KHANH

特集：平成26年度就職状況

vol.93

目次

特集：平成26年度
就職状況

2

青森中央学院大学

6

- ・学位記授与式
- ・入学式
- ・学内企業セミナー
- ・学生主体による公開講座「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した」
- ・青森市・全国「道の駅連絡会」・青森県中小企業同友会との連携協定
- ・横内まちづくり協議会始動
- ・留学生による外国語会話講座 in まちなかキャンパス
- ・「Oh!Share」活動中!
- ・海外同窓会・青森サポーターの会設立
- ・海外留学プログラム
- ・新入生抱負
- ・新年度の抱負
- ・卒業後の進路選択
- ・国家試験対策

青森中央短期大学

10

- ・学位記授与式
- ・入学式
- ・新入生ガイダンス
- ・あなたの食栄ラジオ
- ・スノーボード実習
- ・学内企業就職セミナー
- ・専攻科卒業生講話

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園 中央文化保育園

12

- ・行事アルバム
- ・先生達活躍しています
- ・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校

14

- ・卒業証書授与式・祝賀会
- ・入学式・オリエンテーション
- ・未来の自分像
- ・進級者の意気込み
- ・ワ・ラッセで職場実習開始
- ・経理発信情報
- ・ファッション通信
- ・おススメ図書
- ・卒業生ピックアップ

新教職員紹介

16

学園共通

18

特集

平成26年度就職状況



キャリア支援センター長 塩谷 未知

平成26年度のキャリア活動を振り返って

学生にとって就職活動は希望と不安、採用する側でも期待と不安で満ち溢れています。どのような学生の応募があるか、自社に役立つ学生を採用できるか、お互いに不安、希望、期待のなかで内定（採用）が決まっています。

世界でも珍しい新卒者を中心とした就職活動と採用活動、お互いにかかる負担は軽いものではありません。しかし、現状の仕組みにはメリットがあるため、多くの問題があるにしても現在の状況が続くものと思われまます。

アベノミクスにより、景気は若干明るさを取り戻しています。求人状況は改善していますが、求人内容と学生の希望にはギャップがあり、厳しい雇用環境は継続しています。

このような雇用情勢の中で、本学園の平成26年度卒業生は専門的な知識や経験を活かし、果敢にチャンスに挑戦しました。その結果、就職内定率は専門学校88.5%、短大99.6%、そして大学が95%と健闘しました。

学生自身の日頃の努力と行動力によって、高い就職内定率を達成しているわけです。また、本学園の諸先輩の活躍、指導教員、キャリア支援センターのスタッフや関係者、そして地域の企業の方や関係者の温かいご支援とご指導の賜物であることは言うまでもないことです。

雇用環境の現状に目を向ければ、多くの企業では痛みを伴う何らかのリストラを行っており、人材の採用については慎重になっています。企業業績がよくなると雇用環境は多少改善されますが、それに頼るわけにはいきません。

就職活動により自らを成長させる逞しさが、就業力を上げ自分の持つ才能を開花させ社会に価値を生み出すことにつながります。世の中は人によって成り立ち、人との濃密な関わり合いのなかで企業活動が日々行われています。企業が社員に求めるのは、人とのコミュニケーション力、行動力、そして何があってもめげずにやり続ける力です。

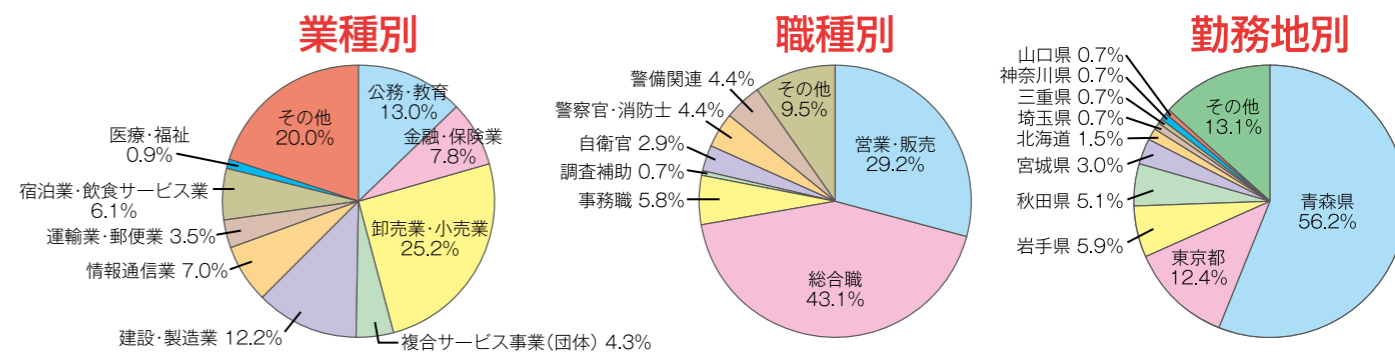
キャリア支援センターでは就業力向上を念頭に、学生の皆さん、教職員の皆さんそして関係する皆さんと一体になり、入学時から就職力の強化を支援しています。



青森中央学院大学の状況

現在の4年生の就職活動の解禁は3月1日と遅くなりましたが、今春の卒業生は平成25年12月1日が解禁日でした。平成25年12月3日、県内大学ではいち早く学内企業就職セミナーを開催し、就職活動を開始しました。卒業式後の3月末までの長期間、就職活動は続きました。もちろん、早めに内定が決まる皆さんもおりますが、半数近くの学生の皆さんは1年近く就職活動をしています。

今春の本学部卒業生の就職率は95%に達しました。就職先を見ると地域の生活や企業活動を支える県内の金融機関、多様な企業や団体、そして公務員へと活動の場を広げています。また、これまで採用実績のない県外企業へ果敢に挑戦する学生も多数おりました。



世の中にはいろいろな（多様な）企業があります。企業は多様な価値観をもった人材を求め、多様な採用活動を行っています。就職活動を継続すれば必ずよい出会いがあります。

4年生の皆さん、就職活動という過程を通じて多くのいろいろな人や企業に出会ってください。よい人や企業、そして嫌な人や企業、いろいろな人や企業に会うことで逞しくなります。

この1年間はチャンスがいっぱいの貴重な時間ですので、学業、学外活動そして就職活動、「あれもこれも」欲張ってやりましょう。キャリア支援センター・委員会では皆さんと一緒に就職活動に取り組めます。

(キャリア支援委員長 塩谷 未知)

就職活動体験記



相馬 健人さん
三機工業

私は、公務員をめざしていましたが、力及ばず国家一般職試験は不合格でした。しかし、ゼミの先生から叱咤激励を受け、開き直って就職活動を始め、内定を頂きました。公務員試験のための勉強も、SPIやWEBテストなどを受ける際、非常に役立ちました。

失敗しない人間はいません。失敗してもそれを次の糧にすればいいのです。是非みなさんも百折不撓の精神を持って就職活動に臨んで下さい。



小島 和博さん
SMBCフレンド証券

私はもともと金融業界に興味はありましたが、大学2年生のインターンシップで初めて証券会社を知り、業務内容を学ぶことで、興味を持ちました。就職活動では、キャリア支援センターに何度も通い、その努力が報われ、内々定をいただきました。

後輩の皆さん、本気で入社したい企業に対して『熱意』を注いでください。そのための準備を怠らないことが就活で失敗しない秘訣だと思います。



陸 俐君さん
八甲田ホテル

就職活動では、まず自己分析を行い、ホテル業界に興味があることに気づきました。そして、何度もキャリア支援センターで書類の添削や面接練習を重ねましたが、過去を積み重ねてきた今の自分を、自信を持って相手にアピールすることは非常に貴重な体験でした。

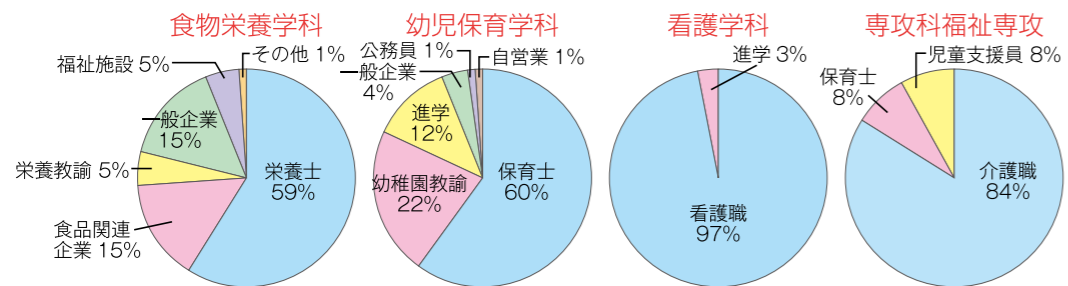
これから、仕事に自信と誇りを持ち、日々人間力を高めながら努力していきたいと思っています。

青森中央短期大学の状況

平成26年度の就職状況は99.6%と、高い就職率を維持しました。これは、学生本人の努力とご家庭のご協力があってこそその結果であり、感謝申し上げます。近年、首都圏での就職者も増加傾向にあります。早期から首都圏を望む学生、首都圏からの求人の出足が早いこと、さらには待遇面など、要因は様々です。一方で本学では、栄養士、保育士、幼稚園教諭、看護師、介護福祉士の専門の資格を活かし地元就職を支援する取組みを積極的に行い、地域に貢献しております。

食物栄養学科は栄養士・栄養教諭・食品関連職種で79%を超えました。この他、一般企業13%、福祉施設5%と続きます。**幼児保育学科**は進路決定率100%であり、資格を活かした保育士、幼稚園教諭に82%が就職しました。また、学びを更に深めるため、12%が本学専攻科に進学しています。地域としては、首都圏希望者が増える傾向にあり、早期の求人や福利厚生充実から、就職を決める学生が増えていると考えられます。**専攻科福祉専攻**は、近年、介護福祉士の人材不足が大きく叫ばれる中、100%の就職率達成となりました。少子高齢社会で、介護福祉士の需要は今後も増加すると予想されます。保育士資格を取得後、継続して専攻科で学びを深め、福祉系分野で通用する人材の育成に、今後も力を入れてまいります。**看護学科**は今年度も就職・進学で進路決定率100%を達成しました。青森県への就職は66.6%と、県内でも群を抜く高い地元就職率を維持するだけでなく、地域の中核・基幹病院へ多くの就職を果たし、地域に貢献しております。また、更に専門性を高めるため、3名が進学を果たしています。

今後も早期からのキャリア支援と地域貢献を、保護者の協力を得て、教職員ともに邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
(キャリア支援委員長 中村 純子)

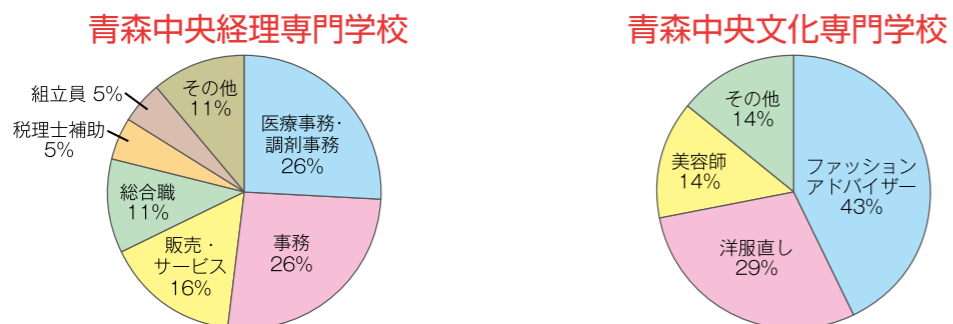


青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校の状況

専門学校全体として88.5%（3月末現在）であり、前年同月比では、6.3%減（前年度は94.8%）となりました。未内定者数は3名であり、在籍人数が少ない専門学校では、1人のウェイトが大きく数字に影響します。前年度減ですが、目標としていた「早期活動・早期内定」また、「専門職への就職」は総じて達成できたと考えています。

10月末時点での内定率は、平成24年度は28.5%、平成25年度は44.4%、平成26年度は47.4%と毎年度上昇しています。要因の一つは、1年生からの授業「キャリアデザイン」における意識涵養や、各種プログラムの成果によることだと考えています。例えば、学外の就職支援団体との連携により実施した「職業人講話」や「企業訪問バスツアー」等は、学生にとっては刺激的であり自主的な就職活動に繋がりました。また卒業生講話や内定者報告会も貴重な経験となり、就職活動意欲の向上に繋がりました。これらのプログラムは今年度も継続して開催予定です。

「専門職」という観点からみると、税理士事務所・社会保険事務所・医療事務・調剤事務・ファッションアドバイザー等それぞれのコース・専攻に即した就職先に内定を頂きました。今年度は、引き続き全員内定+専門分野への就職100%を目標に就職支援に取り組んでまいります。
(専門学校キャリア支援担当 鈴木 伸吾)



就職活動体験記



大間 桃子 さん 青森精神医学研究所附属浅虫温泉病院

私は栄養士として働きたいと考え、6月頃から就職活動を始めました。給食委託会社を2社受験しましたが、どちらも面接試験で落ちました。ある日、キャリア支援センターの方からハローワークに市内の栄養士募集が出ていると聞き、これはチャンスだと思いました。機会を逃さず試験に向けて面接練習を重ねて試験に臨み、内定を頂くことができました。就職試験を通じ、面接ではその会社でなければならぬ受験理由、やりたいことを自分の言葉でしっかりアピールすることが大切だと感じました。そして何よりも就職につながるのには、チャンスを逃さず、積極的に行動することだと思います。

これからは栄養士としての自覚を持ち、前向きにそして社会に貢献できるよう精一杯頑張ります。後輩の皆さん、失敗を恐れず積極的に自分の興味のある会社に挑戦して下さい。



石村 彩 さん 青森藤幼稚園

私が就職活動を始めた頃は市内の求人はまだまだ出ておらず、希望する就職先はありませんでした。幼稚園勤務希望だった私は、次第に周りが内定をもらい始める頃になっても、本当に行きたいところへ就職したいという気持ちが強く、なかなか就職先を決められずにいました。そんな中、青森藤幼稚園の求人情報を頂き、温かい雰囲気の中面接を終え、内定を頂くことが出来ました。

就職活動は大変だと思いますが、自分の希望に沿った場所で働けたら幸せだと思います。頑張ってください。



佐藤 瀬菜 さん 岩手県医療局

私が就職先として岩手県医療局を選んだ理由は、第一に地元で看護師として働きたいということ、次に、岩手県立病院は県内に20施設あり、地域の中核拠点病院であることです。

就職活動は、4月に就職説明会へ参加し、6月から本格的に始めました。実習中のため、実習の間に時間を見つけてキャリア支援センターへ行き、面接練習を重ねました。また、志望理由、長所・短所、自己PRなどもまとめて、先生にチェックしていただきました。面接対策で気をつけたところは、自分の考えを自分の言葉で面接官に伝えることです。丸暗記ではなく要点のみまとめて、自分の言葉で伝える練習をしました。練習を重ねて自信を付けたお陰で、本番でも、和やかな雰囲気の中で答えることができました。



小野 綾子 さん みんなの薬品

私は、医療事務コースで2年間学びました。初めの頃は、医療事務と調剤事務の両方を視野に就職活動をしようと考えていましたが、1年生の時の職場実習でお世話になった病院の薬局を見て、調剤事務の仕事に強く興味を持ちました。そして、2年生に進級した時には、調剤事務で就職したいと気持ちが固まりました。専門学校生の強みである資格取得については、できるだけ多くの資格にチャレンジし、専門的な資格から教養的な資格まで取得しました。面接試験については、自分の考えをはっきり相手に伝えることが最も大切なことだと考え、何度もイメージトレーニングを重ね、準備をしました。

これからも会社が求めている人物にもっと近づけるように頑張ります。



赤坂 詩織 さん ビックママ

私は創作する事が好きで、ウエディングドレス関連の就職を目標に、青森中央文化専門学校のアパレル専攻を選択しました。デザインを見て製図・組立を行うパターンメイキング技術検定試験対策や、アパレルCADの習得など、アパレル業界の即戦力となるような授業を受けました。

また、キャリアデザインの授業を通して、面接指導や履歴書の書き方など細部に渡り指導していただきました。社会人として必要なことを学び、生活の中で自分の力になっていると実感します。

現在は補正やリメイク業務の企業で、お直しコンシェルジュとして頑張っています。学んだ知識と技術を基に、仕事を通して更に技術を磨き、将来の目標であるウエディングドレスデザイナーに繋がりたいと思います。

青森中央学院大学

学位記授与式

3月17日、青森中央学院大学第14期生（125名、うち日本人112名・外国人留学生13名）及び同大学院第10期生（5名、うち日本人1名・外国人留学生4名）の学位記授与式が3号館（体育館）において行われた。学部生には学士（経営法学）の、大学院生には修士（地域マネジメント）のそれぞれ学位記が、学長から一人一人に手渡された。

本年度の卒業の言葉は、日本人を代表して、廣瀬陽史君（学部生）、留学生を代表して黄鉅樺（コウキョウカ）さん（大学院）によって伝えられた。それぞれ自分自身の本学での体験を通じて感じたことを素直に述べたもので、感動を呼ぶものとなった。

式典終了後の祝賀会は、今年も青森国際ホテルで行われ、「ねぶた囃子方」や「軽音楽ライブ」では非常に元気な姿が印象的であった。近年と比較すると落ち着いた祝賀会になったが、その分学生相互、あるいは教職員との語らいはいつまでも続くようで、しみじみとしたものとなっていた。

（経営法学部長 小俣 勝治）

学内企業就職セミナー

第14回目となる学内企業就職セミナーは、地元企業や全国展開企業等、数多くの参加のもとに3月3日に開催されました。就職活動解禁日がこれまでに比べて3カ月後倒しの3月1日になったのを受けて、セミナーの開催時期も遅くなっています。

春休み中ということもあり、学生の皆さんへは開催と当日の注意事項についての周知を徹底的に行いました。

どのブースにも、熱心に耳を傾け質問する本学学生の姿がありました。参加企業の皆さんからは、「多くの学生と接することができ、自分たちの企業活動や採用について説明ができた」と好評でした。

今になってセミナー実施の前後を含めて振り返ると、本学に対する企業の方の温かい思い、教職員の皆さんのきめ細かい支援により、学生と企業の皆さんともに満足度が高い学内企業就職セミナーとなり感謝の念でいっぱいです。

学生の皆さんは今回のセミナーに臨んだ初心やセミナーでの気づきを時々思い出し、地道にたくましく就職活動を進めることを期待します。

（キャリア支援センター長 塩谷 未知）

入学式

本年度の入学式は、4月4日に行われた。経営法学部が17期生、大学院地域マネジメントが12期生、そして看護学部が2期生となる。今年の入学者数は、経営法学部が194名（日本人163名、留学生15名、編入生16名）、看護学部91名、そして大学院10名となっている。

花田学長からの式辞、石田理事長からの祝辞に続いて、本年度はタイ国元日本留学生協会を代表して、来賓のアナン先生から特別のご祝辞を賜った。新入生代表の宣誓は、日本人では松尾健司君（経営法）、留学生では周航さん（中国）から力強くなされた。

2学部体制になり、多くの新入生を迎えることができたためか、会場が非常に狭く感じられた入学式であった。

（経営法学部長 小俣 勝治）



学生主体による公開講座「こうして僕らは世界を変えるために一歩を踏み出した」

私は海外に興味があり、それに関連した活動をしたと思っていました。そんな時、佐藤先生から鬼丸昌也さんという方を教えていただき、その発展途上国の支援活動内容に感銘を受けました。ぜひ生で話をお聞きしたいと思い、講演会開催を企画しました。講演会に向けて、FacebookやTwitter、広報おもりにて講演情報の発信をしました。また高校や大学、図書館等の施設に行き、作成したチラシやポスターでの宣伝を依頼しました。

講演会には、高校生を中心に、100名以上が参加しました。アンケートによるとFacebookとチラシから情報を得た方が多く、集客方法が効果的であったと実感できました。鬼丸さんの話を聞いて、日本では知ることのできない世界の現状を知ることができ、自分にも何かできることはないのかと考える、良いきっかけになりました。

この講演会を開いたことで、新しい一歩を踏み出すことができたと思います。

（経営法学部3年 仁和 万里夢）



青森市・全国「道の駅」連絡会・青森県中小企業家同友会との連携協定

青森市と包括連携協定の締結

3月13日、青森市と学校法人青森田中学園は、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展、将来的に必要とされる人材育成に寄与することを目的とした、包括的な連携に関する協定を締結した。

今後は、①ヘルスツーリズムの推進、②スポーツツーリズムの推進、③グリーンツーリズムの推進、④クルーズ船受け入れに関する事業を主な連携事業として取り組んでいくこととなっている。



全国「道の駅」連絡会との就労体験型基本協定締結

3月5日、青森中央学院大学他東北地方の4大学が全国「道の駅」連絡会と、全国の「道の駅」で就労体験型実習を進めることを合意し、基本協定



を締結した。この取り組みは、将来の地域活性化の担い手となる人材の育成・確保、また道の駅が地域活性化の拠点となることをめざし、若者ならではの視点を活かすことを目的としている。

青森県中小企業家同友会との連携協定

3月23日、青森県中小企業家同友会と青森中央学院大学は、相互の密接な連携と協力により、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展及び将来的に必要とされる人材育成に寄与することを目的に連携協定を締結した。

平成27年度は新たな取り組みとして、会員企業の協力を得て、学生のアクティブラーニングの一環として、学生による会員企業の社史編纂などを企画している。



横内地区まちづくり協議会始動

大学キャンパスのある横内地域住民及び各地域の団体がそれぞれの得意分野で、まちづくりを考え、決め、行動することを目的として、「横内地区まちづくり協議会」が1月21日に発足した。この協議会は、横内町会、雲谷町会含め10町会の活動エリアの住民、団体から成る。

キックオフミーティングとして、3月8日に約100名の本学学生・教職員を含む様々な立場の人々が集まり、ワークショップを開催した。ワークショップでは、経営法学部佐藤淳准教授がファシリテーターとなり、先行地域の紹介の後、ワールドカフェ方式で横内地区の地域づくりの提案を行った。続く4月26日には、地域資源を探ることを目的に、地域の魅力発見「まち歩き」として地域内をバスで巡り、地域の魅力についてのワークショップを開催した。

協議会は、今後も継続してワークショップを実施し、活動計画を策定し、今年度後半から、具体的なまちづくりの活動を実行に移していく予定である。



留学生による外国語会話講座 in まちなかキャンパス

平成26年度「留学生による外国語会話講座」をサテライトキャンパスFRIENDLY WINDOWで開催した。今回は、開講時間を夕方から午後5時の時間帯に移し、中国語、韓国語、ベトナム語、タイ語、マレー語の5か国語の会話講座を実施した。

各講座とも数多くの申し込みがあり、好評であった。会話の勉強のみならず、留学生の紹介する各国の生活や、文化・社会情勢についても、参加者は大きな関心を示し、地域住民と留学生との良い交流の機会となった。



「Oh!Share」活動中！

学生団体「Oh!Share」では、「おしゃれを共有 (Share) しよう！」をコンセプトに、学生生活をより充実させるためのフリーペーパーを制作しています。校内の様々なところに配置しているため、見かけたことのある人もいないのでしょうか。内容としては、学生SNAPやセルフネイル特集、おすすめのお店紹介等、学生が興味を持ちやすい様々なコンテンツを掲載しています。

取材、記事作成、撮影、編集すべて学生が行うため、一から自分たちで考え、仲間とともに作り上げていくことにやりがいを感じています。始まったばかりでまだまだ未熟ですが、一人でも多くの人に手に取ってもらうために、これからも学生目線で情報を発信していきたいと考えています。

また、現在、第2号に向けて一緒に活動してくれるメンバーを募集中です。おしゃれが好きな人、カメラが好きな人、新しいことに挑戦したい人等、誰でも大歓迎です！興味を持った方は是非一緒に活動し、学生生活を盛り上げましょう！

(学生団体「Oh!Share」 竹内 里帆)

海外同窓会・青森サポーターの会設立

本学は、平成10年の青森中央学院大学開学時から海外からの留学生を受け入れている。この度、アジア各国に卒業生が増えてきたことを受け、2月28日にマレーシア同窓会設立総会をクアラルンプールで、3月2日にベトナム同窓会設立総会をハノイで開催した。

同窓会では、卒業生のネットワーク化や各種事業における連携を行うとともに、青森県へのグリーン・ツーリズム旅行や教育旅行、観光旅行の誘致促進を支援する「青森サポーターの会」としても活動する予定である。



マレーシア同窓会・青森サポーターの会

ベトナム同窓会・青森サポーターの会

海外留学プログラム

<平成26年度海外留学プログラム終了>

1月15日、前学期のプログラムで海外に留学した学生6名による海外留学報告会が開催され、それぞれアメリカ、タイ、台湾での体験談や自己成長した点、今後の目標などについて報告が行われた。



また、2月18日には、後学期のプログラムである中国・上海大学とオーストラリア・マッコリー大学への短期留学に参加する学生2名に海外留学奨励費が支給され、海外へ飛び立った。

・中国：上海大学中国語研修プログラム：山崎 唯 (経営法学部3年)

・オーストラリア・マッコリー大学短期語学研修：鈴木佐也加 (看護学部2年)

平成26年度は、全体で経営法学部4名、看護学部4名の合計8名が海外留学に参加し、貴重な経験を重ねてきた。



<オーストラリア留学体験記>

看護学部2年 鈴木 佐也加

春休みにオーストラリア留学をしたきっかけは、英語に触れたいと思ったことと、海外での生活を体験したいと思ったことです。最初の週は英語を聞き取ることもできず、ホストファミリーとコミュニケーションも取れませんでした。大学の帰り、初めてバスに乗った日には、バス停に名前がないことを知り、自分が降りるバス停がわからず道に迷ってしまいました。大学の授業では、他の留学生とペアを組んで活動することが多く、地域による発音の違いに苦戦し、なかなか聞き取ることができずに毎日落ち込んでいました。また、他の国からの留学生は、自分の考えを積極的に発言していて、私も見習わなければならないと感じました。

4週間という期間はあっという間でしたが、徐々に英語も聞き取れるようになり、一人でも電車やバスに迷わず乗れるようになり、自分の成長を感じることができる充実した4週間でした。



写真中央が鈴木さん

新入生抱負

看護学部1年 中田 紗生

「看護師になるための専門的な知識や技術を身につけていれば、他の科目は関係ないのでしょうか？」人間と存在の授業の中で先生から問いかけられました。私は、全ての授業において、物事の本質をとらえる力、探究する力、筋道立てて考えてそれを伝える力を身につけたいと考えました。大学に必要な授業はなく、身につけた力は、将来看護師として働く際に役に立つ力だと思うので、全ての授業に興味を持ち真面目に取り組んでいきたいです。

また、看護展開論の授業では、大学は自ら学ぶ場所であり、自分を見つめる場所であることを学びました。私は考えたことを言葉にするのが苦手で、相手に伝える際によく言葉をつまらせます。看護師をめざす者として、当たり前のことのできない自分と向き合い、普段から意識して、頭の中で考えをまとめてから話すようにしたいと思います。

私は、専門的な知識や技術を学ぼうと根本にあるのが、自分と向き合うことだと思います。看護師になるということは、どういうことなのかを今後自分と向き合いながら考えていきたいです。

卒業後の進路選択

看護学科7期生 八戸市立市民病院勤務 中村 美穂さん

私は高校生の時から生まれ育った青森県で看護師として働き、地域医療に貢献したいと考えていました。八戸市立市民病院は、地域の基幹病院として救急医療を始め高度な医療を提供している病院です。多くの認定看護師や専門看護師の方が専門分野やチーム医療の場で活躍しています。継続教育には、クリニカルラダーやプリセプター制度が導入されていて、教育体制も整っています。病院のインターンシップに参加した際には、病棟の雰囲気も良く、看護師が明るく活発に仕事をしている印象を受け、仕事に専念できる環境が整っていると感じました。自分のキャリアアップを考え、看護技術の習得や医療チーム内での看護師の役割など、経験を積み、学びを深め、自ら成長できる病院と考え志望し、採用されました。

看護師として患者さん、ご家族の方、職場の方と笑顔で接し、よい人間関係を築きながら、一日も早く一人前の看護師になれるよう成長していきたいです。

新年度の抱負

看護学部2年 伊勢田 紗彩

第1期生として入学して一年がたちました。この1年間で特に印象に残っていることは、後学期の病院実習です。2日間の短い間の実習でしたが、臨床の場で患者さんと向き合い、関わらせていただきました。実際の患者さんとのコミュニケーションの難しさを感じながらも、なんとかコミュニケーションをとり、患者さんの笑顔が見られた時は、本当に嬉しく、看護の奥深さ、素晴らしさを改めて感じる事ができました。

新年度となり第2期生を迎え、新しく看護の道をめざす仲間が増えました。2年生になり専門分野の科目が増え、授業も大変ではありますが、学習する中で一步一步目標とする看護師に近づいているという実感がわき、毎日とても充実しています。先輩としてお手本となれるよう、そして共に高め合っていけるよう頑張っていきたいと思っています。

この大学には、お互いに切磋琢磨出来る仲間がたくさんいます。この恵まれた環境の中で、患者さんから信頼されるたくましい看護師になることが私の目標です。

国家試験対策

看護学科7期生 青森県立中央病院勤務 古村 翔太さん

私は国家試験対策の勉強法として、過去問を解いて間違えた問題文と解説をノートにまとめ、くり返し確認できるようにしました。しかし勉強方法で1番のおすすめは、友達と問題を出し合うことです。一人で過去問を解くことも大事ですが、友達と問題を出し合うことで「あの時話し合っただけで答えだったな」と記憶に残ります。私は友人同士で図書館へ集まり、ラーニングコモンズやグループ学修室のホワイトボードに問題を書き、クイズのように解き合いました。これは、一人で勉強していて疲れた時の気分転換にもなります。また、図書館では、クラスメイトも集中して勉強しているので、気合が入ります。国家試験は過去問が形を変え、多く出題されます。過去問を完璧に解けるようになれば自信をもって本番に臨むことができます。必ず解いたことのある問題が出題されるはずですので、みなさんが全員合格することを願っています。自信を持って頑張ってください。

青森中央短期大学

学位記授与式

例年より幾分雪解けも早く、暖かな春の訪れを感じられた3月15日、平成26年度青森中央短期大学学位記・修了証書授与式が挙行された。沢山の保護者の皆様方、教職員、在校生に見守られる中、食物栄養学科62名、幼児保育学科79名、看護学科86名、専攻科福祉専攻12名の計239名が、久保学長より学位記・修了証書を授与され本学より巣立って行った。また、卒業式の後には市内の別会場にて卒業生主催の祝賀会が行われた。卒業生達はお世話になった保護者や教職員との思い出話に花を咲かせると共に、学科毎にそれぞれ趣向を凝らした余興を行うなど、笑い声の絶えない中で各々が最後の思い出づくりを行っていた。4月からは新社会人として、それぞれの資格を生かした専門職としてのキャリアがスタートする。本学での学びを存分に生かした上で、各々が社会に貢献できる人材になることを期待する。卒業生239名の輝かしい未来に幸あれ！



新入生ガイダンス

食物栄養学科では、ガイダンスとして学科長による教育目標・基本方針・大学での学び・生活、授業を受ける態度等についての講話が行われた。また、アドバイザーによる履修の手引き、授業科目・教育課程表・資格等についての説明が行われた。

ガイダンス後は交流会が行われ、2年生が「栄養士」「フードスペシャリスト」「フードサイエンティスト」「秘書士」「司書」「栄養教諭・中学校教諭」「日々の学習・学生生活」「寮生活・一人暮らし」のブースに分かれ、それぞれのブースに来た1年生に説明、質問に答えていた。限られた時間ではあったが、先輩方より学生目線での短大生活の話聞くことができ、有意義な時間を過ごせたのではないかとと思う。



入学式

4月4日、入学式が挙行された。当日は暖かく天候にも恵まれ、体育館では新入生達の明るい笑顔が見られた。青森中央短期大学では食物栄養学科65名、幼児保育学科86名、専攻科福祉専攻7名の新入生を迎えた。

久保薫学長式辞、石田憲久理事長祝辞に続き、在学生代表の塚本莉歩さんによる歓迎のことばが贈られ、新入生の竹内真紀さんによる入学生代表宣誓が力強く行われた。

翌週からの新入生オリエンテーションでは久保学長より「何でもチャレンジして自分の可能性を広げてほしい」とのメッセージが伝えられ、新入生の表情からは自分の夢や目標に向かう意気込みが感じられた。オリエンテーションでは各学科の交流会や学友会総会も行われ、先輩とも交流を深める機会となった。新入生の皆さんがこれから始まる学生生活の中で成長していく姿がとても楽しみである。



幼児保育学科のオリエンテーションでは、まず初めに、学生生活・履修方法についての説明が行われた。新入生達は真剣な眼差しで説明を聞き、今後の大学生活に向けて希望を胸に、思いを新たにしていた。また、昼食時に行われた2年生の有志学生との交流では、緊張しながらも質問をしながらコミュニケーションを取っている様子が見られた。

午後は、塩谷先生による「レクリエーション論」で交流会が催された。自己紹介ゲームやグループづくりゲームなど、様々なゲームを行う中で自然と笑顔になり、緊張も次第にほぐれ、2年生と楽しい時間を過ごすことができた新入生は、良い緊張感と笑顔の中で幼児保育学科の学生として一歩を踏み出したようである。



あなたの食栄ラジオ

「食栄ラジオ！かっこ仮〜」

陽気な掛け声に続く、軽快な音楽。快活な あいちゃん、おっとり まことくん、二人を見守る ちえ先生。食物栄養学科のパーソナリティがお送りする、食栄人のためのラジオ番組をご存知ですか？

本学科では、昨年よりWebラジオの配信を始めました。スタッフは「みんなに食栄をもっと好きになってもらいたい」という気持ちから集まった、学生と教職員です。これまでに学科長の棟方秀和先生や、卒業生の先輩方をお招きし、意外な一面や嬉しいアドバイスなど、あなたの食栄ライフを彩る情報をお届けしてきました。

今後もっと伸ばしていきたい部分は、ラジオの特徴である「参加型」の部分です。相談したいこと、楽しいこと嬉しいこと、気になること、なんでも気軽に私たちに教えてください。あなたからのお便りをお待ちしています。

<http://www.chutan.ac.jp/blog/category/topics/>

Mail: radio@chutan.ac.jp

Twitter: @acmradio / #食栄ラジオ



スノーボード実習

幼児保育学科では、2年生の開講科目である体育実技の科目でスノーボード実習を導入し、2月2日・3日の2日間で実施した。この実習は、短命県と言われる青森県において、運動量が減少するという冬季間にウィンタースポーツに触れ楽しむことで、学生自身の生涯にわたる健康の維持・増進の一助となればとの思いからスタートした。

実習は、参加者の9割以上が初心者という中で、担当教員やインストラクターに用具の取り扱いの仕方や滑走の基本などを教えてもらいながら進化した。最初は不安そうにしていた学生達も、実習が終わる頃には友達同士で教え合いながら楽しんでいった。また、大学に戻ってからも、「道具買おうかな。」など話が盛り上がったようである。

本学から車で20分、青森市街からでも30~40分という場所にスキー場があるという好立地を活かし、これからも積極的に冬を楽しんでほしい。

(幼児保育学科准教授 鈴木 寛康)



学内企業就職セミナー

3月1日の就職活動解禁を受け、3日「学内企業就職セミナー」が開催され、食物栄養学科の学生も就職活動をスタートさせた。

参加企業51社より食品関連企業を中心に各企業のブースを周り採用担当者の説明を真剣に聞き入っていた。セミナー開催時間を有効に使い、1人4~6社を訪問していた。食関連の企業ブースでは、給食委託事業や外食関連業界を取り巻く環境や現状について、とてもわかりやすく詳しく説明していただき、学生達も説明に惹きこまれ、仕事の魅力を伝えようと熱心に対応する企業の熱意が伝わったようであった。

最初の就職活動であり、真剣な眼差しから緊張感が伝わったセミナーであるが、この経験がその後の就職活動に活かされることを願い、さらに企業研究、自己分析を行うことで自らの目標を達成できるよう頑張りたい。



専攻科 卒業生講話

4月7日、専攻科の第15期生である古川奈津子さんをお迎えした。古川さんは、平川市にある介護老人保健施設三笠ケアセンターに介護福祉士として勤務し、現在は介護主任として活躍されている。10年間介護の現場で、経験したことを分かりやすい事例を交えながら講話してくださった。その中で、強く印象に残ったのは、入所者の方から「あなたがいなくて寂しい」「あなたの顔を見ると安心する」と言われ、この言葉に力を貰って頑張ってきた。この思い(初心)を忘れず、これからも介護福祉士として頑張っていきたいという、頼もしく心強い言葉であった。言い換えれば、何気ない入所者と介護福祉士の会話に、介護の魅力そのものが存在している。

これから専攻科に入学した学生は、幼児保育学科で学んだ知恵を活かし、介護を必要とする方々の生活の支えとなれるよう、先輩の講話の内容を少しずつ現実のものとして研鑽し、数年後は先輩として介護の魅力講話して欲しいと願う。



附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

教育方針

—健康で明るく心豊かな子ども—

- 友達と仲良く遊ぶ。
- よく見、よく聞き、よく考える。
- 思ったことははっきり話す。
- 自分のことは自分でやる。

認定こども園附属第一幼稚園



ドキドキの入園式。先生やお友達と一緒に歌をうたって楽しみました。



天気の良い日にお外に出て、春探し。きれいな桜が咲いて、みんな喜んでいました。



たくさんのお友達ができて、毎日ニコニコ元気に遊んでいます。

認定こども園附属第二幼稚園



ちょっぴり緊張した入園式も先生やみんなと「あくしゅでこんにちは」を歌って、にこにこ顔に。



「おいしいおいも、いっぱいなあれ！」と、やさしく土のおふとんをかけてあげたよ。



♪♪きょうものしくできました♪♪おかえりの準備をして、「せんせい、またあしたね〜」

認定こども園附属第三幼稚園



いいお顔でハイチーズ！入園式での年少さん。



さくら誕生会の5名の主役達です。フウ〜！おめでとう。



おいしい給食だいすき！残さないで食べるぞー。

幼保連携型認定こども園中央文化保育園・浦町保育園



12名の新園児を迎え、行われた入園式。みんなお友達！！なかよくあそぼうね。



桜の下で記念撮影。ポカポカ陽気に誘われて、元気いっぱい遊ぶぞ〜！！



英会話保育が始まりました。グッドモーニング、よろしくね。

先生達活躍しています 第14回

4歳児担任として

認定こども園附属第一幼稚園

藤田 絵莉花先生

今年度、年中・たんぼ組を担当することになりました。1年目ということで不安もありますが、少しずつ仕事を覚え、たんぼ組のみんなと毎日楽しく過ごしています。

附属幼稚園にはたくさんの楽しい行事があります。子ども達はこれからいろんなことを体験し、たくさんの発見や感動に出会えると思います。その中で感じた様々な思いを子ども達と一緒に共有し、楽しみながら行事に取り組んでいきたいと思っています。今から子ども達の一つひとつの活動に、どんな笑顔を見せてくれるのか、とても楽しみです。

「今日、幼稚園楽しかった！」と、子ども達が感じられるような保育を展開し、子どもの笑顔がたくさん見られる様、一生懸命頑張ります。

子ども達のために

認定こども園附属第二幼稚園

舩甚 里佳子先生

4月1日から幼稚園教諭となり、2カ月が経ちました。ベテランの先生と組ませて貰い、年少さんの担任をしています。自分のロッカーの場所を覚えたり、毎日泣いていた子が楽しそうにお友達と遊び始めたり、「先生おはよう！」と挨拶をしてくれたり、少しずつ成長していく子ども達の姿を見られてとても嬉しいです。

実際に幼稚園で働いてみると、実習の時よりも一つひとつの仕事に責任感を持つことや、子ども達一人ひとりとしっかり向き合うということがより重要だと感じました。

これからいろいろな出来事や失敗があると思いますが、それを受け止め、次に生かせるようにし、先輩の先生方をお手本として、たくさんのことを学んでいきたいです。

食育の充実をめざして

認定こども園附属第三幼稚園

岡元 未津希先生

幼い頃の幼稚園での楽しみは、友達と遊ぶこと、先生とお話すること、そして給食の時間でした。給食がおいしかった日の帰り道では、喜々として母に話をしていたのを今でも思い出します。

給食の時間は園で過ごす時間の中でもほんのわずかです。それでも、「あの時の給食は美味しかった」と思い出してもらえるように、美味しく、安心安全な給食を作り、楽しく給食を食べてもらいたいと思います。

また、栄養教諭の資格を生かし、子ども達に食への関心を持てるようなお話や、病気知らずで健やかに育っていきけるような食育を進めていきたいです。まだ分からないことばかりで不安な時もありますが、子ども達と一緒に成長できるよう頑張ります。

読み聞かせたい一冊の絵本

幼保連携型認定こども園中央文化保育園 對馬 彩花 先生

『まめうしくんと1.2.3』

あきやま ただし作・絵 (PHP 研究所, 2011)

「数」がテーマの絵本。この本を読み終わると、1から10まで数が数えられるようになっていくのです。まめうしくんと一緒に1から順番に数を数えていくのですが…

「早く数えてみるよ！誰が一番早く言えたかな？」「今度はゆっくり数えてみよっか！」「今度は怒りながらね！」と、読み手につられて思わず聞き手も声を出して真似たくなってしまふ面白さ。

子どもは数を数えるのが大好き。いろんなスピードで、いろんな声で、いろんな表情で数を数えて遊んでみてください。読み方をちょっとアレンジするだけでクイズも楽しめるので、身近な数字を楽しく覚えることが出来てワクワクしますよね！

読み手と聞き手が一緒に楽しめて、読み聞かせにはぴったりの一冊。読み終わった後、数を数えるのが楽しくて、身の回りにある様々なものの数を数えてみたくなる、そんな絵本です。



青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

卒業証書授与式・祝賀会

穏やかな春の日差しが美しい3月21日の春分の日、青森中央経理専門学校及び青森中央文化専門学校の卒業証書授与式が、保護者や在学生が見守る中、厳粛に執り行なわれた。

卒業生代表として、青森中央経理専門学校の佐々木拓人君が、一つ一つ乗り越えた2年間だったと感謝の気持ちを述べた。在校生代表挨拶では、青森中央文化専門学校の工藤捺美さんが、先輩達が残した伝統を守りますと誓いを述べた。

同日午後に行われた祝賀会では、2年間を振り返ったスライドの上映、感謝の手紙を読む場面もあり、会場は沢山の思い出に満ちていた。



未来の自分像

青森中央文化専門学校1年 田邊 隼

私は好きな服飾のことを学び、服に対する感性や考え方をとことん追求し、自分とは違った考えに触れ可能性を広げていきたいと思い、青森中央文化専門学校へ入学しました。

自分が成長するために「自ら学び、自ら行動する」ことを大切にし、先生方や先輩からさまざまなことを吸収することで、将来自分がやりたい仕事や夢を叶えられる人間をめざします。



進級者の意気込み

青森中央経理専門学校2年 吉田 悠記

私は将来、医療系の仕事に就きたいという夢を叶える為に、青森中央経理専門学校の医療事務コースへ入学しました。資格取得に向けて授業、放課後、自宅での時間を有効に活用し、目標である調剤事務の検定にも合格しました。2年生になり、就職活動も始まります。上級の資格を取得し、様々な経験を積み重ね、目標としている職業に就けるように頑張ります。



入学式・オリエンテーション

4月7日、青森中央経理専門学校及び青森中央文化専門学校の入学式が執り行なわれた。新入生を代表し、青森中央文化専門学校へ入学した田邊隼さんが、本校の建学の精神「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」を胸に希望と期待に満ちた誓いを述べた。

8日・9日はオリエンテーションを実施し、互いに交流を深めながらケーススタディでグループワークを楽しんだ他、講師の方を招き、「充実した専門学校生活にするために」をテーマにご講話いただいた。学生は新生活のスタートを期待と抱負を抱き、熱心に聴講した。

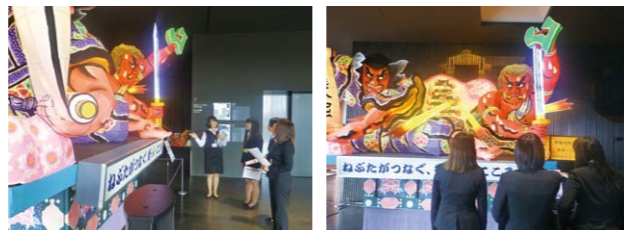


観光コンシェルジュコース ワ・ラッセで職場実習開始

青森中央経理専門学校の観光コンシェルジュコースは、5月21日～7月30日までの全7回の日程で、青森市にある「ねぶたの家 ワ・ラッセ」にて職場実習を行う。

青森ねぶたは、5月にイタリアで開催されるミラノ国際博覧会に向けて、出陣される予定であり、実習施設である「ワ・ラッセ」においても、国内外の観光客を魅了している。

学生達は施設を訪れるお客様に対して、青森県の郷土祭りである「ねぶた」の魅力を伝え、実習を通して観光分野におけるホスピタリティや職業の理解を深めている。



経理発信情報 Vol.14

～献血呼びかけのボランティア活動参加～

青森中央経理専門学校 経理事務コースの学生が、4月に青森市内の複合商業施設にて行われた献血呼びかけボランティアに参加した。この献血呼びかけ活動は、青森中央ライオンズクラブが中心となって行っている活動で、日本赤十字社の移動採血車（献血バス）での献血を呼びかける活動である。

休日ということもあり、建物を訪れる人が多い中、ボランティアで参加した学生達の呼びかける声も元気に響き渡り、たくさんの方が献血に協力した。参加した学生は、「たくさんの方が協力してくれて参加して良かった。」と感想を述べた。



おすすめ図書 vol.13

青森中央経理専門学校 佐藤紋子 先生

『論理的に話す技術』

山本昭生著 (ソフトバンククリエイティブ,2010)

「主観的」、「客観的」という言葉はよくあるが、日常生活において、とても主観的な物の言い方、とらえ方になる場面に直面する。そういう時に意見の「衝突」が発生したり、小さなめ事が起こってしまう。

決して「主観的」が悪いとは言わないが、強すぎる「主観的」な主張から発生する些細な問題は、日常生活、職場において、いつ、どんな時でも、誰にでも発生するため、交通事故に遭遇するよりも確率が高いと思っていた。

そんな時、書店で見つけた「論理的に話す技術」という図書は、題名が固いイメージでもイラストを多く使い、読み手がイメージしやすいような工夫を施している。また、読み進めていくと、「そうそう、よくある!」という内容が書かれ、話す意識だけでなく、聞く意識についてもじっくり書かれている。

「場数を踏んでも話し方が上手にならない」、「これから就職試験で面接対策の為に」と考えている人に、特にオススメする図書です。

ファッション通信 vol.13

～ My camouflage ～

季節もだんだん暖かくなり、夏も近づいてきました。今年の流行の一つに、迷彩柄があります。迷彩柄はどちらかというと「カッコイイ」イメージが強いですね。今季はミモレ柄のスカートにすることで、大人っぽいかっこよさの中にも、女性らしいシルエットを演出してくれます。

トップスと靴は流行色のイエローを取り入れました。迷彩柄はダークなので、色のメリハリも表現でき、一段と夏らしくなります。他にはオフショルダーやオールホワイトにすると、更に夏らしいファッションになります。

おしゃれをしてイベントに出かけましょう。

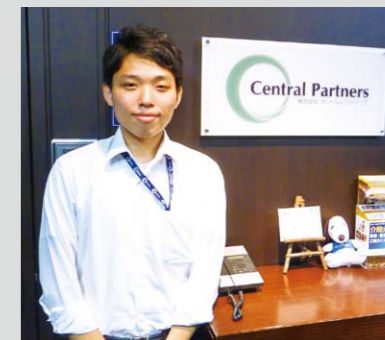


(記事・デザイン画：文化編集部サークル)

卒業生ピックアップ No.26

青森中央経理専門学校 経理事務コース平成25年度卒業
セントラルパートナーズ勤務勤務
藤本 崇平さん

私は、青森中央経理専門学校で経理事務コースに所属し、沢山のことを学びました。特に、授業で学んだ「ファイナンシャルプランナー」の知識は、現在勤務している保険業界のセントラルパートナーズにおいて、とても役に立っています。保険関係の業界に就職することをめざしていたので、経理事務コースで学んだ知識、学校生活で体験した課外活動など、色々な取り組みが就職活動の自分の強みになっていったと思います。仕事は、難しいことも大変なことも多いですが、学校で学んだことを大切に、日々、努力しています。在校生のみなさんも充実した学校生活を送り、自分のめざす就職先から内定をいただけるように頑張ってください。






新教職員紹介




- ① 職位・氏名
- ② 出身
- ③ 担当
- ④ 抱負

青森中央学院大学

経営法学部

- 
 - ①教授 井口 義久 (いぐち よしひさ)
 - ②新潟県
 - ③管理会計論、経営分析論
 - ④本学の校歌-愛と知恵と真実と-を在学生や卒業生の皆様と合唱できます事を楽しみにしております。
- 
 - ①教授 小松原 聡 (こまつばら さとし)
 - ②東京都
 - ③経営戦略論、企業論 (経営法学部)、経営戦略特論 (大学院) 等
 - ④研究者と実務家双方の視点から企業経営を研究してきました。日本の発展を支える若い人材にこれまでの蓄積を伝承したいと考えます。
- 
 - ①教授 藤巻 啓森 (ふじまき けいしん)
 - ②中国
 - ③日本の歴史と文化、中国事情と言語、その他留学生関連講義
 - ④今までの経験を生かしながら、広い視野に立った教育、研究をめざし、全力で学生の指導にあたりたいと思います。

看護学部

- 
 - ①教授 中久喜 町子 (なかくき まちこ)
 - ②青森県
 - ③小児看護学
 - ④43年ぶりに青森に戻ってきました。専門職を選択した学生が誇りをもって卒業できるように応援したいと思います。
- 
 - ①教授 伊藤 ひろ子 (いとう ひろこ)
 - ②山形県
 - ③精神看護学
 - ④学生の皆さんが、看護の仕事に誇りを持つよう支援することを通して、共に学び合いたいと念じています。
- 
 - ①准教授 齋藤 美紀子 (さいとう みきこ)
 - ②青森県
 - ③小児看護学
 - ④新しい環境にわくわくしています。これまでの経験を活かしつつ、さらに研鑽を積んでいきたいと思っています。

事務局

- 
 - ①菊地 憲夫 (きくち のりお)
 - ②青森県
 - ③入試広報センター
 - ④学園内外の関係者の皆様やこれからの未来を担う学生の皆様との絆を築いてまいります。何卒宜しくお願いいたします。
- 
 - ①納谷 雅子 (なや まさこ)
 - ②中国
 - ③国際交流課
 - ④私の得意な中国語で青森や青森田中学園の事を海外の方々にPRし、事務局の仕事も一生懸命取り組みます。
- 
 - ①石澤 直樹 (いしざわ なおき)
 - ②青森県
 - ③教育開発推進課
 - ④これまでの経験を生かし、少しでも早く環境に慣れ、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお祈りします。
- 
 - ①佐川 康希 (さがわ やすき)
 - ②北海道
 - ③入試広報センター
 - ④学生時代を過ごした青森県が大好きで、北海道から移住してきました。大学の魅力をわかりやすく高校生に発信していきます。
- 
 - ①今村 良平 (いまむら りょうへい)
 - ②千葉県
 - ③総務・経理
 - ④仕事もプライベートも楽しく！！がモットーです。県内オススメ情報がありましたら、是非教えてください。
- 
 - ①渡邊 政幸 (わたなべ まさゆき)
 - ②青森県
 - ③管理
 - ④これからの学園の美化、環境のため、一層力を入れ、仕事に励みたいと思います。









幼稚園・保育園

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園





- 
 - ①伊勢田 愛美 (いせだ いつみ)
 - ②青森県
 - ③4歳児 ひまわり組
 - ④毎日可愛い子ども達の笑顔を見ることが出来る嬉しです。負けない位の笑顔と元気で頑張ります。
- 
 - ①藤田 絵莉花 (ふじた えりか)
 - ②青森県
 - ③4歳児 たんぽぽ組
 - ④早く仕事を覚え、子ども達と楽しい保育ができるよう精一杯頑張ります。
- 
 - ①川村 唯夫 (かわむら ただお)
 - ②青森県
 - ③管理
 - ④幼稚園での勤務は初めてですが、一日も早く職務及び職場の環境に対応できるように頑張りたいと思います。
- 
 - ①小西 章子 (こにし しょうこ)
 - ②青森県
 - ③調理補助
 - ④子どもたちの好き嫌いがなくなるようなおいしい給食を提供できるよう頑張ります。

幼稚園・保育園

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園

- 
 - ①八木橋 ひろみ (やぎはし ひろみ)
 - ②秋田県
 - ③附属第二幼稚園園長
 - ④新制度がスタート。質の高い幼稚園教育に、保育園機能が加わった「認定こども園」の良さを活かし、充実させていきたいです。
- 
 - ①石崎 麻里 (いしざき まり)
 - ②青森県
 - ③2歳児 みかん組
 - ④自分になりたかった先生になれるよう、これから子ども達とたくさん笑い、たくさん遊び、大きく成長していきたいです。
- 
 - ①今 由香 (こん ゆか)
 - ②青森県
 - ③2歳児 みかん組
 - ④子ども達の心にいつまでも残るような保育者になれるように、子ども達に寄り添った保育をしていきたいです。
- 
 - ①金川 あかり (かながわ あかり)
 - ②青森県
 - ③栄養教諭・栄養士
 - ④給食や食育を通して、子ども達に食べ物のおいしさ、食事をする事の素晴らしさを伝えていきたいです。
- 
 - ①野呂 悠紀 (のろ ゆうき)
 - ②青森県
 - ③0・1歳児 ぶどう組
 - ④子ども達からフレッシュなパワーをもらって、毎日明るく元気に頑張りたいと思います。
- 
 - ①鎌田 望 (かまた のぞみ)
 - ②青森県
 - ③2歳児 みかん組
 - ④笑顔で子ども達と沢山関わり、今までの経験や自分の子育て経験を活かせるように頑張りたいと思います。
- 
 - ①舩甚 里佳子 (ますじん りかこ)
 - ②青森県
 - ③3歳児 さくらんぼ組
 - ④保護者の方々から大切な子ども達を預かっているの、常に責任感を持って行動したいと思います。
- 
 - ①館山 弥志 (たてやま ひろし)
 - ②青森県
 - ③事務・管理
 - ④バスの送迎では安全運転を第一に考え、また園では子ども達が過ごしやすい環境を整えていながら、みんなに笑顔をお届けのお兄さんとして頑張っていきたいです。


認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園

- 
 - ①中畑 道絵 (なかはた みちえ)
 - ②青森県
 - ③2歳児 かなりや組
 - ④一日も早く子ども達との距離を縮め、安心して過ごせる環境作りや健やかな保育を行っていきたくと思っています。
- 
 - ①山崎 晴香 (やまざき はるか)
 - ②青森県
 - ③4歳児 つばめ組
 - ④何事も臨機応変に行動していきたいです。たくさん学び、子ども達とともに成長していきたいらと思っています。
- 
 - ①櫻井 美喜 (さくらい みき)
 - ②青森県
 - ③3歳児 こぼと組
 - ④この職業に誇りと責任を持ち、子ども達のために日々努力し続けていきたいと思っています。
- 
 - ①岡元 未津希 (おかもと みつき)
 - ②青森県
 - ③栄養教諭・栄養士
 - ④子ども達が笑顔になる、安全安心でおいしい給食を提供できるよう頑張ります。また、食育活動も進めていきたいです。

幼保連携型認定こども園中央文化保育園

- 
 - ①澤口 聡美 (さわぐち さとみ)
 - ②青森県
 - ③0・1歳児 ひよこ組
 - ④子ども達が毎日楽しく元気いっぱいに過ごせるように、私自身もいつも笑顔で保育をしていきたいと思っています。
- 
 - ①松橋 有紀 (まつはし ゆき)
 - ②青森県
 - ③0・1歳児 ひよこ組
 - ④いつも笑顔で大切に、子ども達にとって安心できる存在でいられるように頑張ります。
- 
 - ①鈴木 千恵子 (すずき ちえこ)
 - ②青森県
 - ③調理員
 - ④調理の仕事は初めてですが、毎日楽しみにしてくれるようなおいしいごはんを作れたらいいなと思っています。よろしくお祈りします。
- 
 - ①小林 久子 (こばやし ひさこ)
 - ②秋田県
 - ③0・1歳児 ひよこ組
 - ④いつも笑顔で大切に、子ども達にとって安心できる存在でいられるよう頑張ります。
- 
 - ①工藤 智絵 (くどう ちえ)
 - ②青森県
 - ③0・1歳児 ひよこ組
 - ④かわいい子どもたちの笑顔で、私自身元気をもらっています。子ども達がいつも楽しく過ごせるように頑張りたいです。
- 
 - ①秋田谷 恵志子 (あきたや えしこ)
 - ②青森県
 - ③0歳児 つぼみ組
 - ④新しい職場に早く慣れ、ゆったりとした雰囲気の中でたくさんのお友達と触れ合い、楽しく保育をしていきたいと思っています。

幼保連携型認定こども園浦町保育園

- 
 - ①秋田谷 恵志子 (あきたや えしこ)
 - ②青森県
 - ③0歳児 つぼみ組
 - ④新しい職場に早く慣れ、ゆったりとした雰囲気の中でたくさんのお友達と触れ合い、楽しく保育をしていきたいと思っています。

学園共通

青森田中学園感謝祭

2月6日、針供養と青森田中学園感謝祭が執り行なわれた。日々、針と身近に接し、ファッションを学んでいる青森中央文化専門学校の他、青森中央経理専門学校、青森中央学院大学大学院、青森中央学院大学、青森中央短期大学附属幼稚園、中央文化保育園、浦町保育園、特別養護老人ホーム三思園等、各施設から多くの方々が参加した。

第一部は、宮司による供養の儀、玉串奉奠の儀等の神事が執り行われ、詔を捧げた。続いて、青森中央文化専門学校生が、一年間使用した折れた針・錆びた針に感謝を込めて柔らかい豆腐に刺し、労い休め、技術の上達を願った。

第二部では、感謝祭の神事を執り行った廣田神社宮司様より、物を慰め、感謝する心を育む大切さのお話をいただき、東日本大震災発生から復興支援を続けてきた青森中央大学ふっこう会サークルからは、現地で行った活動が発表された。



教員免許更新講習

平成21年4月より、教員免許更新制が導入され、満35歳、45歳、55歳の現職教員・教員採用内定者は必ず更新講習を受講し、更新手続きを行うことが義務付けられました。本学園でも、この制度を受けて、地域の高等教育機関と連携をとりながら、各設置校の特色を生かした教員免許更新講習を実施しております。今年度の講習日程・内容については以下の通りです。不明な点は、県教育委員会へお問い合わせください。

【開講一覧】
講習会場：青森中央学院大学 受講者募集期間：4月1日～7月17日
時間数：6時間 時間：9時～17時30分 対象職種：教諭
■7月31日(金) 学校が抱える課題－生涯学習・教育政策の観点からの考察－
■8月3日(月) 学校教育において有用な「法」に関する講義
■8月4日(火) 青森県における地域産業の現状・課題・未来

主催：青森中央短期大学 受講者募集期間：4月1日～7月17日
時間数：6時間 時間：9時～17時30分
■8月5日(水) 学校教育における「いのちの教育」の原理的なあり方について 対象職種：教諭・養護教諭
■8月5日(水) 幼児期における食育の実際 対象職種：教諭・栄養教諭
■8月11日(火) 食物アレルギーの栄養指導の実践に向けて 対象職種：教諭・養護教諭
■8月18日(火) ジュニア期のスポーツ選手のための食育 対象職種：教諭・養護教諭

公開授業「現代社会の諸相」

今年度もまた公開授業「現代社会の諸相」が始まった。専任教員が統一テーマを踏まえて、専門領域に絡めて1回づつ講義を行うオムニバス方式で、人口問題、地域経済、スポーツと健康、労働環境、異文化問題、政治、紛争、情報通信などの様々な切り口から、現代社会の変容していく姿を捉え、今後の展開などについて学ぶ授業である。今年度のテーマは、「社会変革を引き起こす15の予兆」である。

日程	テーマ	講師
4/9(木)	プログラムの全体説明+EU崩壊の軌み	内山 清
4/16(木)	重く押し掛かる財政負担	高山 貢
4/23(木)	人口減少による地方社会の崩壊	岩船 彰
4/30(木)	アジアの中の異文化を考える	加藤 澄
5/7(木)	持続的経済成長と企業価値	井口 義久
5/14(木)	格差社会への警鐘	森田 学
5/21(木)	低下する投票率と選挙年齢の引き下げ	佐藤 淳
5/28(木)	知識集約化社会における教育システム	竹中 司郎
6/4(木)	国際テロリズムの拡大	大泉 常長
6/11(木)	同性愛者の権利：結婚と子の養育	椎名 智彦
6/18(木)	国際結婚	金 美和
6/24(木)	急拡大するロボット世界の行方	鈴木 克成
7/2(木)	社会に広がるIT犯罪	新免 圭介
7/9(木)	医療費の増加抑制のための健康政策について	奥村 俊樹
7/16(木)	雇用契約の変容と非正規労働市場	小俣 勝治

会場：青森中央学院大学学術交流会館 時間：16：10～17：40

看護実践支援セミナー開催のお知らせ

～看護学部 基礎看護学領域～

これまで事例検討学習会を基礎看護学領域で3年間実施してきましたが、今年度より青森中央学院大学地域連携課の支援のもと「看護実践支援セミナー」として開催することになりました。セミナーではこれまでと同様に、NANDA-I看護診断・NOC・NICを用いた看護計画について事例を通して学ぶことは元より、電子カルテ記載の基礎となる看護記録の法的根拠や位置づけ、日々の経過記録についても学びます。その他にも参加者の皆様が希望する内容に沿って毎月すすめてまいります。

政府は2017年から電子カルテの情報を集め、匿名のビッグデータとして分析し、医療費の伸びを抑制する方針を打ち出しました。それに合わせ、個人情報保護法改正案を提出する動きも見え、今後も電子カルテの導入が進むことが予測されます。来るべき日に備え、多くの病院の方と一緒に学んでいきましょう。

電子カルテ導入病院・導入予定病院の方に限らず、看護記録指導に迷っている方、看護診断を初歩から学びたい方、実際の事例展開に興味のある方、どなたでも参加可能です。詳しくは地域連携課までお問い合わせください。

開催行事案内

青森中央学院大学サテライトキャンパス FRIENDLY WINDOW

所在地：青森市新町2-7-13(新町通り柳町交差点) 開館時間 10:00～18:00

●青森中央文化専門学校公開講座

日時	内容	対象	材料費
6月29日(月) 13:00～15:00	こぎん刺し応用講座 ～カードケース・小物入れ～	一般・学生	実費
7月13日(月) 13:00～15:00			
7月27日(月) 13:00～15:00			
7月25日(土) 13:00～16:00	簡単ソーイング ～ノートカバー～		
10月5日(月) 13:00～15:00	アクセサリー講座 ～オリジナルブローチ～		
10月19日(月) 13:00～15:00			

●FWミニ公開講座「これからの高齢化社会をどう生きるか～明日を豊かに生きるために～」

日時	テーマ	講師
6月27日(土) 10:30～12:00	認知症の人と上手にかかわるために①	看護学部教授 山田 皓子
7月4日(土) 10:30～12:00	家庭における看取り～経験した人の話を聞いてみませんか？	看護学部専任講師 泉 美紀子
7月25日(土) 10:30～12:00	認知症の人と上手にかかわるために②	看護学部教授 山田 皓子

青森中央学院大学・青森中央学院大学大学院

●連続公開講座「明日を豊かに生きる」

会場：7号館フリースペース

日時	テーマ	講師
7月予定 13:00～14:20	会社と法律(仮題)	経営法学部講師 寺井 里沙
7月予定 13:00～14:20	環境と課題(仮題)	経営法学部准教授 森田 学
9月予定 13:00～14:20	ナイチンゲールから現代の看護教育へ～これからの超高齢社会に寄り添う～	看護学部長・教授 一戸 とも子
10月予定 13:00～14:20	こころの健康(仮題)	看護学部教授 伊藤 ひろ子
10月28日(水) 13:00～14:20	鈴木健二先生の「あおもりゼミナール」(仮題)	元青森県立図書館長 鈴木 健二氏

●連連続公開講義「暮らしと地域(郷土と文化)」

会場：学術交流会館

日時	テーマ	講師
7月1日(水) 13:00～14:20	健康食アピオスにかける	下北アピオス振興会会長 河野 紹視氏
7月8日(水) 13:00～14:20	チャンスを活かす…弊社の経営戦略	株式会社オカムラ食品工業代表取締役社長 岡村 恒一氏

青森中央短期大学

●高校生対象公開講座「キャンパスで作ってみよう～大学生とワイワイ～」

会場：学術交流会館

日時	内容	対象
7月4日(土) 10:30～12:00	ミュージカル製作体験 ～君の作った道具や衣装が「アラジンと魔法の精」の舞台の一部になる!～	高校生

●Sessions on the Arts 2015 / 響感アート交流地点

会場：学術交流会館

日時	内容	対象
6月27日(土) 13:00～15:00	日菓の和菓子のおはなし	一般(参加費500円)

●公開講座

会場：青森中央短期大学

日時	内容	対象	材料費
8月8日(土) 10:00～12:30	親子でおいしい和のクッキング Vol.1 ～和菓子にチャレンジ～	幼児～小学生とその保護者	親子1組700円
8月23日(日) 10:00～12:00	スチロールで簡単版画～親子で思い出を飾ろう～	親子	材料費実費
9月26日(土) 10:00～12:00	日常を楽しむデッサン教室	一般	材料費実費
10月10日(土) 10:00～12:30	心を繋ぐおばあちゃんの郷土料理 Vol.3	一般	600円

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

●青森中央経理専門学校公開講座

会場：青森県総合社会教育センター

日時	内容	対象
8月27日(木)・28日(金)	パソコン教室 Word・Excelの基礎	一般

●青森中央経理専門学校公開講座

会場：青森駅ビル ラピナ もくもく～木育広場～

日時	内容	対象	材料費
8月21日(金)・22日(土)	夏休み自由研究 ～デコレーションボックス、リース、フォトフレーム～	幼児～小学生	実費



「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、10月発行予定の94号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■94号応募締め切り：9月18日

■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。

※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生在が撮影した未発表作品に限ります。

※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。

お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp



携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第93号

発行日：2015. 6. 20

発行：学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12

TEL：017-728-0131

FAX：017-738-8333

<http://www.aomoricgu.ac.jp>

<http://www.chutan.ac.jp>

「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

松島 正起 浜中 幸美

木村 貴子 佐藤 紋子

坪谷 輝子 八木橋ひろみ

岩葉 悦子 高橋 晴美

中田 尋美